

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）							決算額 （千円）		
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	④ ⑰	博物館セカンドスクール事業	自然史・歴史博物館普及課	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数	1,116団体 (H24年度)	目標 1,000 団体	実績 312 団体	達成率 31.2 %	1,000 団体 (毎年度)	379 団体	1,000団体以上 (毎年度)	1,141	1,202	1,685	16,075	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、旅行会社の訪問が難しく学校団体の誘致活動が十分にできなかった。 また、感染予防対策として休館措置や入館者数の制限等を実施中、団体予約のキャンセルも相次いだ。 このような状況において、学校団体誘致数、学校関係入館者数ともに令和2年度よりは増加したものの、目標値の40%に達していないことから、「遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校団体誘致活動が困難であったことや、団体予約のキャンセル、閉館措置等により、目標値に届いていないことから「やや遅れ」と判断。 【課題】 団体受入に関する様々な取組や条件について、社会状況を鑑み、適切に判断しながら、緩和を進めていく必要がある。	博物館を第二の学校として位置づけ、子どもたちの学習意欲を喚起するなど、学校教育支援をさらに推進する。 また、文学館については、企画展やイベントの実施、周辺施設との連携等により来館者やリピーターの増加を図る。
	2	④ ⑰	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数	10,741人 (H23年度)	目標 30,000 人	実績 8,973 人	達成率 29.9 %	30,000人 (毎年度)	17,641 人	30,000人 (毎年度)	9,789	18,671	15,592	30,950	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行った上で企画展を実施し、展示を紹介する動画配信などを行った。入館者数は増加傾向にあったが、達成率が58.8%で目標には至らなかったため「やや遅れ」と判断。			
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	③ ④ ⑪ ⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	家庭教育学級長向けアンケート満足度	—	目標 85 %	実績 —	達成率 —	85% (毎年度)	71.7 %	85% (毎年度)	2,910	4,895	5,614	9,150	順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況であったが、動画配信や資料配布など工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を概ね達成した。 また、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 コロナ禍であるが、開催方法を工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を概ね達成した。 また、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 市民センターが核となって、家庭・地域・学校が連携させる仕組みを充実させる必要がある。 また、コロナ禍において保護者の学びを止めないためにオンラインを活用するなど多様な家庭教育学級の開催を検討する必要がある。	コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるよう環境整備を図る。 併せて、市民センターを核とした家庭教育学級の実施及び運営方法について、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	③ ④ ⑪ ⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	家庭教育学級長向けアンケート満足度	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	2,910	4,895	5,614	9,150	順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況であったが、動画配信や資料配布など工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を概ね達成した。 また、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 コロナ禍であるが、開催方法を工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を概ね達成した。 また、オンラインで学べるWeb漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 市民センターが核となつて、家庭・地域・学校が連携させる仕組みを充実させる必要がある。 また、コロナ禍において保護者の学びを止めないためにオンラインを活用するなど多様な家庭教育学級の開催を検討する必要がある。	コロナ禍においても家庭教育学級を開設できるような環境整備を図る。 併せて、市民センターを核とした家庭教育学級の実施及び運営方法について、関係者へのアンケートなどをもとに改善を図る。	
							実績	—	71.7 %											
							達成率	—	84.4 %											
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。 また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	目標	110,000 人	前年度以上	前年度以上 (毎年度)	12,657	13,516	11,592	6,900	順調	コロナ禍において、Webを活用するなど様々な感染予防対策をして実施した結果、前年度より講座数は増加し、成果指標である参加者数も120%以上の達成率であった。 以上のことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習推進コーディネーターの配置割合が増加し、成果指標に対する達成率は80%を超えた。 また、生涯学習市民講座参加者数の成果指標の達成率は120%を超えた。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題や現代的課題（社会的課題）等の解決を目指した講座を増やす必要がある。 また、コロナ禍において市民に学習機会を提供するため、オンライン環境整備を進める必要がある。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していく。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民センター館長・職員等の研修を充実させる。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していく。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。	
							実績	93,589 人 (H25年度)	44,429 人											56,844 人
							達成率	40.4 %	127.9 %											
	6	④ ⑪ ⑰	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	多様化・高度化する市民の学習要求に応え、生涯学習事業の充実及び学習の促進を目的に、全市民センターに生涯学習推進コーディネーターを配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	目標	85 %	60 %	60% (毎年度)	4,978	6,969	6,016	3,650	順調	コーディネーターの配置割合が増加し、成果指標に対する達成率は80%を超えた。 以上のことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習推進コーディネーターの配置割合が増加し、成果指標に対する達成率は80%を超えた。 また、生涯学習市民講座参加者数の成果指標の達成率は120%を超えた。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していく。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民センター館長・職員等の研修を充実させる。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していく。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。	
							実績	56.2% (H25年度)	49.2 %											50.8 %
							達成率	57.9 %	84.7 %											

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	決算額 （千円）		予算額 （千円）	決算額 （千円）	事業 評価		評価の理由
I-3- (2)-① 地域活 動を リード する人 材の育 成	7	④ ⑪ ⑰	北九州市民カ レッジ事業	生涯学 習合 セン ター	市民の多様な学 習ニーズに対応し た生涯学習機会を 提供し、自己実現 の促進および「循 環型生涯学習社 会」を担う人材の 育成を図る。 北九州市民カ レッジの講座は、 生涯学習総合セン ター主催コース（ま ちづくり・人材育 成系、総合・教養 系の2コース）と高 等教育機関提携 コースを前期・後 期の2期で実施。	受講者数	1,682人 (H30年 度)	目標 1,500 人	実績 529 人	799 人	1,700人 (毎年 度)	3,338	4,710	3,292	20,700	やや 遅れ	受講者の満足度は104.7% と目標を上回っているが、非 常事態宣言下の休館等のた め、前期28講座のうち、17講 座が中止、7講座が延期と なったことから受講者数の達 成率が52.2%となった。 以上のことから「やや遅 れ」と判断。		
	受講者の満足度	90% (H25年 度)	目標 95 %	実績 99 %	99.5 %	95% (毎年 度)	達成率 104.2 %	104.7 %											
	8	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰	生涯学習活動 促進事業	生涯学 習課	各市民センター 等で、地域課題や 現代的課題等の解 決を目指す講座、 心と体の健康づく りを目指す講座な ど幅広い分野にわ たる講座を実施す る。 また、それぞれの 地域の特色を生 かし、家庭・地 域・学校が連携し て、子どもたちに 様々な体験活動や 世代間交流の機会 を提供し、地域ぐ るみで子どもを見 守り育てる意識を 高め、地域全体で 子どもの健全育成 に取り組む機運を 醸成する。	生涯学習市民講座 参加者数	93,589 人 (H25年 度)	目標 110,000 人	実績 44,429 人	56,844 人	前年度 以上 (毎年 度)	12,657	13,516	11,592	6,900	順調	コロナ禍において、Webを 活用するなど様々な感染予防 対策をして実施した結果、前 年度より講座数は増加し、成 果指標である参加者数も 120%以上の達成率であっ た。 以上のことから「順調」と 判断。	順調	【評価理由】 北九州市民カレッジの受講 者数は目標を下回ったが、生 涯学習市民講座参加者数の達 成率は120%を超え、満足度 についても概ね目標を達成し た。 また、「地域活動をリード する人材が増加していると感じ る」に肯定的な回答をした 人の割合についての達成率は 86%だった。 以上のことから「順調」と 判断。 【課題】 生涯学習市民講座について は、地域課題や現代的課題 （社会的課題）等の解決を目 指した講座を増やす必要があ る。 また、コロナ禍において市 民に学習機会を提供するた め、オンライン環境整備を進 める必要がある。
生涯学習活動に関する満足度	96.3% (H25年 度)	目標 90 %	実績 87.9 %	75.5 %	95%以 上 (R7年 度)	達成率 97.7 %	79.5 %												
9	④ ⑪ ⑰	地域課題解決 のための人材 活用支援事業	生涯学 習課	地域が主体的に 地域課題を解決す ることができるよ う、地域人材の発 掘～育成～活動ま でを体系的に支援 し、地域力アップ につなげる仕組み をつくる。学んだ 成果を地域に活か す講座の開催、地 域活動をリードす る人材育成事業 （市民センター館 長等研修など）及 び多様な機関との 連携強化を実施す る。	「地域活動をリー ドする人材やボラ ンティア活動に取 組む人材が増加し ていると感じる」 に肯定的な回答を した割合	37.6% (H27年 度)	目標 60 %	実績 37.5 %	30.1 %	50% (R7年 度)	576	617	178	5,400	順調	学びから活動への仕組みづ くりでは、今年度は全市民セ ンターで実施した。 また、引き続き市民セン ター館長等研修を実施するこ とで、地域活動をリードする 人材育成に取り組んだことに より、成果指標に対する達成 率は86%であった。 以上のことから「順調」と 判断。			
達成率	62.5 %	86.0 %																	

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）							決算額 （千円）	
I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成	10	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数（累計）	88法人（H29年度）	目標	135	法人	135法人（R2年度）	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規NPO法人数は目標を概ね達成している一方、サポートセンター利用者数は大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。 【課題】 市民活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
							実績	128	法人												
							達成率	94.8	%												
I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成	10	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	サポートセンター利用者数	29,293人（R1年度）	目標	25,000	人	20,000人（毎年度）	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規NPO法人数は目標を概ね達成している一方、サポートセンター利用者数は大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。 【課題】 市民活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
							実績	11,572	人	8,256	人										
							達成率	46.3	%	41.3	%										
I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成	10	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数	17法人（R1年度）	目標	15	法人	15法人（毎年度）	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規NPO法人数は目標を概ね達成している一方、サポートセンター利用者数は大きく減少しているが、事業自体は概ね順調に遂行されており「順調」と判断。 【課題】 市民活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
							実績	14	法人												
							達成率	93.3	%												
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	11	④	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	92%（H23年度）	目標	90	%	90	%	11,306	11,820	9,958	8,075	順調	消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多様化・複雑化している中で、消費者から最初に連絡を受ける存在として、今後も安定した活動を推進する必要がある。	今後も効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。
							実績	93.5	%	92.1	%										
							達成率	103.9	%	102.3	%										
						消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合	91.5%（H26年度）	目標	90	%	90	%	11,306	11,820	9,958	8,075	順調	消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多様化・複雑化している中で、消費者から最初に連絡を受ける存在として、今後も安定した活動を推進する必要がある。	今後も効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。
							実績	95.7	%	93.7	%										
							達成率	106.3	%	104.1	%										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度				R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関わる施策の推進	12	①	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数	14,170人 (H27年度)	目標 前年度 (38,225人) 比増	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	3,965	6,747	2,735	15,900	順調	「住んでいる地域が安全だ」と思う市民の割合は84.1%と前年度と比べ、わずかに減少しているが、「ながら見守り活動」の推進等により防犯パトロール活動参加者が増加していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民の体感治安は前年度と比べ、わずかに低下しているが、高い水準を維持している。 また、安全・安心なまちづくりにおけた各種取組を推進した結果、防犯パトロール活動参加者は増加し、性犯罪認知件数も減少するなど、各事業が8割以上の達成率を満たしているため「順調」と判断。	【課題】 体感治安の向上に向けて、安全・安心に関する取組のさらなる情報発信に加えて、コロナ禍に合わせた形式での各種セミナー運営が求められる。	県警察と連携し、地域の生活安全パトロール隊へ犯罪情報を提供し、より地域の実情に沿ったパトロール活動を促進するなど、警察・地域が一体となった防犯施策を実施する。 また、体感治安の改善に向けて、安全・安心なまちづくりの取組を推進するとともに、市内外へ改善した本市の治安状況を積極的に発信していく。
						市民が感じる治安状況（体感治安）	73.7% (H27年度)	目標 前年度 (86.1%) 比増	前年度比増	前年度比増 (毎年度)										
	13	①	子どもと女性の犯罪被害防止対策事業	安全・安心推進課	子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	35校 (H25年度)	目標 155 校	185 校	215校 (R4年度)	772	3,087	2,497	15,900	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により当初予定していた「安全セミナー」「地域安全マップづくり」が中止となる場合もあったが、性犯罪の認知件数は減少していることから「順調」と判断。	順調	【課題】 体感治安の向上に向けて、安全・安心に関する取組のさらなる情報発信に加えて、コロナ禍に合わせた形式での各種セミナー運営が求められる。	安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付け、市民の相談機会の充実を図るものため、継続して事業を実施していく。	
※中期目標改訂 (R4年度目標設定時)	実績 147 校	158 校	達成率 94.8 %	85.4 %	性犯罪認知件数	104件 (H25年)	目標 前年 (74件) 件数減	前年件数減	件数減 (毎年)	52 件										51 件
14	①	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心推進課	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受けける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22% (H27年度)	目標 前年度 (33.6%) 比増	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	17,735	19,575	18,247	15,900	順調	安全・安心総合相談ダイヤル、生活環境パトロールについて、円滑に運営出来ているが、安全・安心総合相談ダイヤルの認知度はほぼ横ばいである。コロナ禍でも事業の円滑な運営が出来ているため「順調」と判断。					

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	15	⑤ ①	地域防犯対策 事業	安全・ 安心 推進課	北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標	前年 (2,498件) 比減	前年比減	前年比 減	24,525	24,734	22,638	15,900	順調	体感治安、街頭犯罪件数と もに目標をわずかに下回った が、市民が感じる治安状況に ついては高い水準で推移して おり、コロナ禍でも各団体が 工夫して自主防犯活動を実施 していることから「順調」と 判断。	【評価理由】 コロナ禍において活動が制 限される中、各自主防犯団体 が工夫して防犯活動に取り組 んだことや防犯灯及び防犯カ メラの設置が進んだ結果、各 事業において9割以上の達成 率を満たしているため「順 調」と判断。 【課題】 市民の防犯意識の向上のため 、既存の自主防犯団体への 更なる支援を通じて防犯活動 を促進することに加えて、安 全・安心に関する取組のさら なる情報発信により、市民の 体感治安の向上を図る必要が ある。	既存の防犯活動団体の支 援を強化し、防犯活動の更 なる活性化を図るととも に、引き続き防犯灯や防犯 カメラの整備による防犯活 動の強化を図る。 また、「ながら見守り活 動」の促進など、自主防犯 活動に取り組む市民の増加 に向けた事業を実施する。
								実績	2,019 件	2,182 件									
16	⑥	防犯灯設置事 業	安全・ 安心 都市 整備課	夜間における犯 罪の発生を未然に 防止し、公衆の通 行の安全を図るた め地域と市が協力 しながら、防犯灯 を設置。 防犯灯の設置に あたっては、LED防 犯灯の設置促進を 図り、町内会等の 地域の防犯灯の設 置のため費用の一 部を助成し、明る く安心して生活で きるまちづくりを 推進。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (6,127件) 比減	前年比減	前年比 減(毎 年)	36,286	89,287	32,849	3,435	順調	防犯灯の設置(LED化)が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから「順 調」と判断。			
							実績	5,145 件	5,109 件									達成率	116.0 %
					市民が感じる治安 状況（体感治安）	73.7% (H27年 度)	目標	前年度 (86.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)									
					実績	87.2 %	84.1 %	達成率	101.3 %		96.4 %								

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
17	16		防犯カメラ事業	安全・安心都市整備課	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理を行う。 更に、近年開発が進む駅周辺などに新たに防犯カメラを設置し、適切な維持管理を行う。	市民が感じる治安状況（体感治安）	73.7% (H27年度)	目標	前年度 (86.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎 年 度)	42,006	46,417	42,290	3,435	順調	防犯カメラの適正な維持管理のもと、そのデータは有効に活用されており、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。		
							実績	87.2 %	84.1 %										
							達成率	101.3 %	96.4 %										
						刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (6,127件) 比減	前年比減	前年 比減 (毎 年)	8,599	13,630	11,394	3,435				
							実績	5,145 件	5,109 件										
							達成率	116.0 %	100.7 %										
18	16		防犯カメラ設置補助事業	安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取組を推進する。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (6,127件) 比減	前年比減	前年 比減 (毎 年)	8,599	13,630	11,394	3,435	順調	防犯カメラ設置補助台数は目標を超えており（目標：50台、実績：52台）、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。		
							実績	5,145 件	5,109 件										
							達成率	116.0 %	100.7 %										
						市民が感じる治安状況（体感治安）	73.7% (H27年度)	目標	前年度 (86.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎 年 度)	8,599	13,630	11,394	3,435				
							実績	87.2 %	84.1 %										
							達成率	101.3 %	96.4 %										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-③ 暴力団 追放運動の推 進	19	①	暴力追放の推 進	安全・ 安心 推進 課	社会全体で暴力 団を排除する取組 を推進するため、 事業者・市民の暴 排意識を高める市 民暴力追放総決起 大会や暴力追放強 調月間による集中 的な啓発活動など を実施し、官民一 体となって取り組 む。	暴追対策に対して 評価した市民の割 合	目標	前年度比増 (80.5%)	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)	4,567	13,392	5,536	12,850	順調	新型コロナウイルス感染症 対策を講じつつ、市民大会や 各種研修会も実施した。 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、対前年度比増 となったため「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、前年度と比べ 増加しており、各区における 暴追大会、北九州市民暴力追 放総決起大会や各種研修会を 感染症対策を徹底した上で開 催できたため、「順調」と判 断。	引き続き暴力追放の取組 を進めるとともに、より細 やかな民事介入暴力相談の 実施等、内容の充実を図っ ていく。 また、県警察をはじめと した関係団体と連携し、 「暴力団離脱・就労相談窓 口」の効果的な周知を行っ ていく。
							実績	78 %	79.4 %										
							達成率	96.9 %	101.8 %										
						企業における暴力 団排除条項の規定 割合	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	R1年度 比増 (R4年 度)									
							実績	—	—										
							達成率	—	—										
II-1-(3)-③ 暴力団 追放運動の推 進	20	①	民事介入暴力 相談事業	安全・ 安心 推進 課	市民生活への暴 力団等の介入を排 除し、安全・安心 なまちづくりを図 るため、民事介入 暴力相談を実施。	暴追対策に対して 評価した市民の割 合	目標	前年度比増 (80.5%)	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)	11,057	5,116	1,075	4,300	順調	民事介入暴力相談につい て、コロナ禍で対応が制限さ れる中でも、円滑な相談業務 を実施し、暴追対策に対して 評価した市民の割合は、対前 年度比増となっているため 「順調」と判断。	順調	【課題】 暴力団の壊滅に向けて、令 和4年度より新たに実施する 「暴力団離脱・就労相談窓 口」の効果的な周知が求めら れる。	
							実績	78 %	79.4 %										
							達成率	96.9 %	101.8 %										
						企業における暴力 団排除条項の規定 割合	目標	単年度目標 設定なし	前年度比増	R1年度 比増 (R4年 度)									
							実績	—	—										
							達成率	—	—										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）						
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	21	③	交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	第10次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。 生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	目標	7,300件以下	前年比減	令和7年までに3,300件以下	14,337	12,432	12,787	9,800	順調	交通事故の発生件数及び交通事故死亡者数が、ともに前年を下回ったため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 交通事故の発生件数、自転車関連事故の発生件数及び交通事故死亡者数が、すべて前年を下回ったため、「順調」と判断。 【課題】 効果的な交通事故防止対策となるよう、対象を絞って事業を実施する必要がある。 また、交通安全教育や啓発活動を積極的に行うことにより、交通ルール、マナーの周知徹底を図る必要がある。	引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。
							実績	4,450 件	4,074 件										
							達成率	139.0 %	108.4 %										
						交通事故死亡者数（警察統計のため暦年でカウント）	目標	19人以下	前年比減	令和7年までに15人以下									
実績	20 人	18 人																	
達成率	94.7 %	110.0 %																	
22	③		交通安全センター管理運営	安全・安心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	目標	7,300件以下	前年比減	令和7年までに3,300件以下	27,881	27,881	27,881	3,650	順調	交通事故の発生件数及び自転車関連事故の発生件数が、ともに前年を下回ったため、「順調」と判断。	順調		
							実績	4,450 件	4,074 件										
							達成率	139.0 %	108.4 %										
						自転車関連事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	目標	前年（622件）比減	前年比減	前年比減（毎年）									
実績	496 件	466 件																	
達成率	120.3 %	106.0 %																	

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-⑤ 非行や 犯罪を 生まな い地域 づくり	23	⑤	地域防犯対策 事業	安全・ 安心 推進 課	北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。	街頭犯罪件数	目標	前年比減 (2,498件)	前年比減	前年比 減	24,525	24,734	22,638	15,900	順調	体感治安、街頭犯罪件数と もに目標をわずかに下回った が、市民が感じる治安状況に ついては高い水準で推移して おり、コロナ禍でも各団体が 工夫して自主防犯活動を実施 していることから「順調」と 判断。	順調	【評価理由】 犯罪件数、体感治安ともに わずかに目標を下回っている が、コロナ禍において活動が 制限される中、各自主防犯団 体が工夫して防犯活動に取り 組んだ結果であり「順調」と 判断。 【課題】 市民の防犯意識の向上のため、 既存の自主防犯団体への 更なる支援を通じて防犯活動 を促進することに加えて、安 全・安心に関する取組のさら なる情報発信により、市民の 体感治安の向上を図る必要が ある。	既存の防犯活動団体の支 援を強化し、防犯活動の更 なる活性化を図る。 また、「ながら見守り活 動」の促進など、自主防犯 活動に取り組む市民の増加 に向けた事業を実施する。
							実績	2,019 件	2,182 件										
II-3-(4)-① 平和の 尊さへ の理解 の促進	24	⑬	戦時資料展示 コーナー管理 運営事業	地域 振興 課	市民から寄贈が あった戦時下の資 料を保管、展示す ることにより、北 九州市立埋蔵文化 財センター内に開 設した戦時資料展 示コーナーにおい て、戦争がもたら した惨禍と平和の 尊さを多くの市民 に理解してもら う。	戦時資料展示コー ナー見学者数	目標	4,000 人	4,000 人	前年度 比増 (毎 年 度)	1,362	1,361	1,312	1,220	やや 遅れ	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大による閉館やその 後の外出自粛の影響により、 見学者数の目標達成率が約 40%となったため、「やや遅 れ」と判断。	やや 遅れ	【評価理由】 見学者数の目標達成率が約 40%となったため、「やや遅 れ」と判断。 【課題】 令和3年度で当事業は終了 するが、令和4年4月に開館し た北九州市平和のまちミュー ジウム等を通じ、引き続き平 和の尊さへの理解を進めてい く必要がある。	戦時資料展示コーナー展 示物は令和4年4月に開館し た北九州市平和のまち ミュージアムに移設済のため、 令和3年度で当事業は終 了。
							実績	1,656 人	1,649 人										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標		決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由
Ⅲ-1-(1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	25	①	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・安心都市整備課	<p>条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。</p> <p>・小倉・黒崎地区（迷惑行為防止重点地区）での巡視活動（過料の適用）</p> <p>・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援</p> <p>・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育</p> <p>・モラル・マナーアップに関する広報啓発</p>	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	現状値 (基準値)	82団体 (H26年度)	目標	前年度比増 (100団体)	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	17,943	15,827	15,381	6,150	やや遅れ	<p>【評価理由】</p> <p>コロナ禍で対面での広報・啓発活動が制約を受ける中、活躍内容を工夫した結果、広報・啓発活動全体の回数は前年度の実績及び目標を上回った。</p> <p>迷惑行為防止に係る地域活動団体数は、前年度よりわずかではあるが減少している。</p> <p>また、小倉・黒崎地区における路上喫煙率も前年度から上昇に転じているため「やや遅れ」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>巡視活動の強化や迷惑行為防止に係る活動の裾野の拡大のための広報や周知が必要。</p>	<p>令和2年度から始まった第3次基本計画に基づき、引き続き迷惑行為防止のための啓発活動を行っていく。</p>
							指標名等	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	実績	102 団体	100 団体								
Ⅲ-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	26	①	文化財保存補助	文化企画課	<p>伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。</p>	指定無形民俗文化財保存支援団体数	現状値 (基準値)	16団体 (H26年度)	目標	17 団体	17 団体	17団体 (毎年度)	776	1,127	880	11,050	順調	<p>【評価理由】</p> <p>補助制度について文化財保存団体への周知と適切な協議を進めることができ、またコロナ禍においても文化財保存伝承活動は継続していることから「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>指定無形民俗文化財保存団体の自主的な申請に対して補助を行う制度については、引き続き保存団体に対して周知を行っていく。</p>	<p>伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き文化財保存団体の活動の強化に資する補助制度を継続していく。</p>
							指標名等	指定無形民俗文化財保存支援団体数	実績	13 団体	14 団体								

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	27	④ ①	芸術文化活性化事業	文化企画課	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。	北九州芸術劇場・自主事業入場率	95% (H21年度)	目標	87 %	87 %	87% (R5年度)	85,322	107,668	91,605	3,550	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、市民自らの判断によるチケット購入の自粛傾向に加え、感染症対策として行った体調不良者への払い戻し等が生じる中、一定程度の入場率を維持している。 加えて、感染防止対策の徹底や主催者への支援など、安全な催事実施に取り組み、本市の文化芸術活動の場を守り、文化振興に寄与していることから「順調」と判断。	【評価理由】 北九州芸術劇場、響ホールは自主事業の実施により文化芸術を発信し、文化芸術活動の場を守るなど、本市の文化振興に寄与した。 北九州国際音楽祭は、高い満足度を維持している。 映像製作誘致強化関連事業は、高い認知度を維持し続けており、また、都市ブランドとして「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合も目標を大きく上回った。 松永文庫については、新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数の目標は未達であったが、企画展を4回開催するなど、引き続き、目標の達成に向けた取組を行っている。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 感染症対策を行いながら、安全な催事実施に取り組み、高い入場率につながる魅力的な自主事業を発信していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要と考える。 映像製作誘致強化関連事業では、引き続き感染予防対策を徹底し、市民・ロケ地に安心してもらいながら撮影支援を行う必要がある。また、今後の渡航制限解除に向け、いかに知名度のある海外作品の誘致を行い、本市の魅力を海外に発信し、インバウンドを獲得していくかが課題である。 松永文庫については、企画展示内容に触れる機会とその選択肢を増やすため、引き続きオンラインコンテンツ化等を検討する必要がある。	今後とも発信力が高く、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業を実施していく。 映像製作誘致強化関連事業については、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 松永文庫では、企画展を安定実施するとともに、動画配信による情報発信等を活用し、来館者数の目標を達成出来るよう取組を継続していく。
					実績			78 %	78 %										
達成率	89.7 %	89.7 %																	
					【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施。	響ホール事業・響ホール自主事業入場率	56% (H21年度)	目標	65 %	65 %	65% (R5年度)								
実績	71 %	59 %																	
達成率	109.2 %	90.8 %																	
28	④ ①	北九州国際音楽祭	文化企画課	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、令和3年度で34回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。	北九州市国際音楽祭の満足度	83% (H21年度)	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	63,526	40,000	13,609	1,625	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で海外楽団による公演が中止となったものの、「東アジア文化都市北九州2020・21」の連携事業として、一流の演奏家を招き、多くの方に音楽の魅力を届けることができた。 加えて、満足度も高い水準を維持していることから、本市の文化振興に大きく寄与したと判断し、「順調」と判断。			
							実績	99 %	98 %										
達成率	116.5 %	115.3 %																	

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標	決算額 (千円)		予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由
29	⑧ ⑪		映像製作誘致 強化関連事業	文化 企画 課	映画・テレビド ラマ等のロケ地誘 致や撮影支援を積 極的に行い、本市 の知名度と都市イ メージの向上を図 る。 また、活動成果 の市民との共有 や、「映画の街・ 北九州」という都 市ブランドの発信 により、街のにぎ わいの創出や市民 交流等のまちづく りにつなげる。	地域経済への貢献 (直接経済効果)	100,000 千円 (H21年 度)	目標	150,000 千円	150,000 千円	150,000 千円 (R1年度 以降毎 年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の影響で撮影支援活動が大幅 に制約される中、新しい生活 様式に則った厳格な対策を行 いながら、撮影の誘致・支援 活動を実施した。 これにより、多くの映像作 品の誘致を成功させるととも に、複数のオール北九州ロケ の大規模作品の誘致を実現 し、経済効果は概ね目標を達 成した。 また、都市ブランド「映画 の街・北九州」を広めたいと 思う市民の割合は目標を大き く上回っている。 以上のことから、「大変順 調」と判断。		
							実績	23,080 千円	140,826 千円	85.0% (R1年度 以降毎 年度)									
							達成率	15.4 %	93.9 %										
					北九州フィルム・ コミッションの市 民への認知度	59.8% (H25年 度)	目標	85.0 %		85.0% (R1年度 以降毎 年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の影響で撮影支援活動が大幅 に制約される中、新しい生活 様式に則った厳格な対策を行 いながら、撮影の誘致・支援 活動を実施した。 これにより、多くの映像作 品の誘致を成功させるととも に、複数のオール北九州ロケ の大規模作品の誘致を実現 し、経済効果は概ね目標を達 成した。 また、都市ブランド「映画 の街・北九州」を広めたいと 思う市民の割合は目標を大き く上回っている。 以上のことから、「大変順 調」と判断。			
						実績	86.8 %												
						達成率	102.1 %												
					都市ブランド「映 画の街・北九州」 を広めたいと思う 市民の割合	—	目標		17.0 %	17.0% (R3年度 以降毎 年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の影響で撮影支援活動が大幅 に制約される中、新しい生活 様式に則った厳格な対策を行 いながら、撮影の誘致・支援 活動を実施した。 これにより、多くの映像作 品の誘致を成功させるととも に、複数のオール北九州ロケ の大規模作品の誘致を実現 し、経済効果は概ね目標を達 成した。 また、都市ブランド「映画 の街・北九州」を広めたいと 思う市民の割合は目標を大き く上回っている。 以上のことから、「大変順 調」と判断。			
						実績			28.5 %										
						達成率			167.6 %										
30	⑧ ⑪		松永文庫企画 事業	文化 企画 課	松永文庫が多数 所蔵している貴重 な映画資料等を活 用し、企画展やイ ベントを実施し 「映画の街・北九 州」の魅力発信を 行う。	年間来館者数	89,317 人 (H26年 度)	目標	10 万人	10 万人	10万人 (毎 年度)	6,772	9,600	5,815	4,900	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止のための臨時 休館のほか、外出を控える傾 向が続いたこと等により、年 間来館者数が目標の2割に留 まったことから「遅れ」と判 断。		
							実績	3 万人	1.8 万人										
							達成率	30.0 %	18.0 %										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標	決算額 (千円)		予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	31	④ ①	芸術文化育成負担金・補助金	文化企画課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。	各種文化事業の実施	16事業 (H23年度)	目標 16 事業	実績 15 事業	16 事業	16 事業 (毎年度)	33,237	42,850	40,834	5,825	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、事業の中止や内容の変更を余儀なくされた事業もあったものの、文化事業実施数は前年度を上回るなど、この助成制度によって、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があったことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標に届かなかった指標もあるものの、文化団体や市民の活動を支援し、市民の文化芸術活動の促進に寄与しており「順調」と判断。	助成制度は、市民主体の文化芸術活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後も継続する必要がある。
	32	④ ①	北九州市文化振興基金	文化企画課	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	27件 (H21年度)	目標 25 件	実績 2 件	5 件	25件 (毎年度)	3,544	9,800	3,596	3,825	遅れ	若手アーティストの支援や芸術文化活動に対して助成を行うことができたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や緊急事態宣言の発令等の影響から、応募事業が減少し、募集実施回数と補助件数は目標を下回ったため「遅れ」と判断。	遅れ	【課題】 助成の内容や必要性を検討しながら、感染症対策を徹底し、参加者が安心して文化に触れることができる事業の実施を推進していく。	
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	33	④	美術館企画展充実事業	美術館普及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数	245,420人 (H26年度)	目標 240,000 人	実績 93,479 人	126,264 人	240,000人 (R4年度)	86,186	107,544	104,298	36,750	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館があり、コレクション展、企画展ともに入館者数が目標値に届かなかったため、「やや遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも美術館、博物館ともに総入館者数は回復傾向にあるが、目標には達していないことから「やや遅れ」と判断。	これまで美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業や近隣施設と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究する。 また、新規の来場者や団体客、リピーターを増やせるよう魅力ある特別展や企画展を検討するとともに、より効果的な広報PRを行うなど、来館者の増加につながる施策を実施する。
						コレクション展の観覧者数	11,713人 (H26年度)	目標 30,000 人	実績 16,067 人	15,805 人	30,000人 (R4年度)									
34	④		博物館企画展・特別展充実事業	自然史・歴史博物館普及課	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るもの。	博物館総入館者数	369,711人 (H24年度)	目標 450,000 人	実績 137,736 人	241,736 人	450,000人 (毎年度)	26,180	52,600	48,285	74,600	順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、GW期間や夏休み期間に休館することもあったが、特別展は年間5回開催することができた。入館者数は例年に及ばないものの、回復傾向にあり、目標の70%を超えたことから「順調」と判断。	順調	【課題】 近隣の大型施設開館により修学旅行やツアー等の団体客の増加が見込まれる中、より魅力的な企画展のPRの展開等、ソフト事業を充実させる必要がある。 今後も来館者が安全・安心して観覧できるよう感染防止対策を行うとともに、より魅力ある展示・館運営が求められる。	

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価 やや 遅れ	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）						
Ⅲ-2-(2)-④ 文化芸術の担 い手の育成	35	④	美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」	美術館普及課	市内の小学3年生を対象に、美術作品の鑑賞体験型のプログラムを作成し、子どもたちに体験してもらうことでシビックプライドの醸成をはかる。	参加校の割合	14% (H29年度)	目標 100 %	実績 55.4 %	達成率 55.4 %	100 % (毎年度)	28,619	29,214	23,039	25,650	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、中止となった学校もあったが、目標数の7割近くの実施ができたため「順調」と判断。	【評価理由】 実施形態を見直すなどの工夫・検討を行いながら事業を実施し、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供することができたが、数値としては目標に達していない事業もあることから「やや遅れ」と判断。 【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、引き続き市民が様々な文化・芸術に触れる機会を確保していくことが必要である。	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。 学校・地域等における教育普及活動（アウトリーチ）やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業内容や実施方法を検討していく。 また、市民が合唱に親しむことのできる機会の提供を図っていく。
	36	④ ①	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シビックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人 (H27年度)	目標 3,000 人	実績 1,647 人	達成率 54.9 %	2,100 人	2,100人 (毎年度)	3,675	6,757	6,571	8,725	順調	放課後児童クラブを対象としたコンサート事業では、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と異なる会場で開催するなど、コロナ禍におけるイベントのあり方を検討し、工夫しながら事業を実施することができた。 参加者数も目標値を上回り、子どもたちが一流の音楽に触れることのできる機会を創ったことから「順調」と判断。	
	37	④ ①	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。 これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロシッププログラムの受講者数	6人 (H23年度)	目標 5 人	実績 3 人	達成率 60.0 %	5 人	5人 (R3年度)	37,721	38,000	31,901	8,150	遅れ	CCA北九州のメイン事業であるフェロシッププログラムは、新型コロナウイルス感染症の流行により募集自体を行えず従来どおり活動できなかった。 市民対象の公開事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加者数は目標に届かなかったが、令和3年12月末の活動終了までの9ヶ月間で、会期の延長を行ったり地域住民を対象とした講座も感染対策を行い実施することで、一定程度の成果を得ることができた。 以上のことから、一定程度の成果はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことや目標値の実施期間が当初の予定より3ヶ月短い9ヶ月となったことを受けて、目標値には達しなかったため「遅れ」と判断。	
					CCA北九州事業参加者数	2,122人 (H23年度)	目標 1,800 人	実績 713 人	達成率 39.6 %	1,800 人	1,800人 (R3年度)								

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由
38	④		子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、全国の小中学生を対象に創設した文学賞。	応募総数	570件 (H27年度)	目標	1,000 件	1,000 件	1,000件 (毎年度)	8,336	10,076	8,341	5,400	順調	当文学賞の受賞作品は全国的にも評価が高く、広く周知されている。 応募数は昨年度を上回り、目標の達成率は77%であることから「順調」と判断。		
39	④		林芙美子文学賞	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。 多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文学的土壌を全国に発信するとともに、これから文壇デビューを目指す新たな文学の才能を発掘することを目的に実施するもの。	「林芙美子文学賞」作品応募数	484件 (H29年度)	目標	500 件	500 件	500件 (毎年度)	8,423	11,022	7,587	4,550	順調	作品応募数は目標に至らなかったが、昨年度とほぼ同等数の実績であり、作家として書き続けていく力量を持った書き手に絞り込まれ、選考委員から一定の評価をいただいていることから「順調」と判断。		
40	④ ①		「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。	合唱関連事業における歌い手としての参加者	682人 (H27年度)	目標	250 人	250 人	250人 (毎年度)	0	1,000	0	7,150	やや遅れ	北九州市少年少女合唱団定期演奏会や合唱組曲「北九州」演奏会の開催など、合唱に触れる場を守り、文化振興に寄与したものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、登壇者の人数制限や、街なかでのコンサートが中止となるなどの影響を受け、歌い手としての参加者数は目標値に達しなかったため、「やや遅れ」と判断。		

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価 やや 遅れ	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）							
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	41	④ ⑧ ①	創造都市推進事業	文化企画課	文化芸術の力を活用した「創造都市・北九州」の実現に向け、東アジア文化都市北九州を開催する。同時に東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進等に取り組む。	2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数（累計）	目標	20	件	20	件	20件 (R3年度)	149,064	371,900	264,495	64,000	順調	主催・連携事業数等は、ほぼ目標を達成。一方、「文化芸術を『身近に感じたことがある』』とされている市民の割合」を、基準値から10ポイント上昇させることを目標としていたが、目標に届かず、さらに、基準値からも3.6ポイント下回った コロナ禍の中、東アジア文化都市北九州の主催・連携事業では15事業が中止、文化施設では利用・入場制限を行ったことが影響したと分析している。 達成率は7割を超えていることから、「順調」と判断。	東アジア文化都市北九州事業が終了。令和4年度のレガシー事業の実施や次期文化振興計画の策定作業の中で、成果の継承を図る。 映像製作誘致強化関連事業については、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ったうえで、より一層魅力的な企画展等を企画し、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。	R5年度予算要求に向けた施策の方向性
							実績	21	件	19	件									
							達成率	105.0	%	95.0	%									
42	④	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	目標	100,000	人	100,000	人	10万人 (毎年度)	48,616	63,580	47,090	44,000	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館に加え、積極的な広報を控えざるを得ない状況もあり、年間入場者数が目標値の43.3%に留まったため「やや遅れ」と判断。	【課題】 東アジア文化都市北九州が終了。今後はレガシー事業の中で、取組を進めていく必要がある。 映像製作誘致強化関連事業では、引き続き感染予防対策を徹底し、市民・ロケ地に安心してもらいながら撮影支援を行う必要がある。また、今後の渡航制限解除に向け、いかに知名度のある海外作品の誘致を行い、本市の魅力在海外に発信し、インバウンドを獲得していくかが課題である。 新型コロナウイルス感染症予防対策を行ったうえで事業を実施するとともに、多くの市民に文化施設へ来館していただくため、より魅力のある展示、運営等を図っていく。	R5年度予算要求に向けた施策の方向性	
						実績	25,564	人	43,263	人										
						達成率	25.6	%	43.3	%										
43	⑥ ①	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献（直接経済効果）	目標	150,000	千円	150,000	千円	150,000千円 (R1年度以降毎年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変順調	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。 これにより、多くの映像作品の誘致を成功させるとともに、複数のオール北九州ロケの大規模作品の誘致を実現し、経済効果は概ね目標を達成した。 また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回った。 以上のことから、「大変順調」と判断。	R5年度予算要求に向けた施策の方向性		
					実績	23,080	千円	140,826	千円											
					達成率	15.4	%	93.9	%											
北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	目標	85.0	%	85.0%	(R1年度以降毎年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変順調	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。 これにより、多くの映像作品の誘致を成功させるとともに、複数のオール北九州ロケの大規模作品の誘致を実現し、経済効果は概ね目標を達成した。 また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回った。 以上のことから、「大変順調」と判断。	R5年度予算要求に向けた施策の方向性								
	実績	86.8	%	28.5	%															
	達成率	102.1	%	167.6	%															
都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合	目標	17.0	%	17.0%	(R3年度以降毎年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変順調	新型コロナウイルス感染症の影響で撮影支援活動が大幅に制約される中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。 これにより、多くの映像作品の誘致を成功させるとともに、複数のオール北九州ロケの大規模作品の誘致を実現し、経済効果は概ね目標を達成した。 また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回った。 以上のことから、「大変順調」と判断。	R5年度予算要求に向けた施策の方向性								
実績	28.5	%	167.6	%																
達成率	167.6	%	167.6	%																

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
44	④ ①		北九州文学サ ロン管理運営 事業	文化 企画 課	女性俳句の草分 けである杉田久 女・橋本多佳子な どのPR・顕彰に取 り組むとともに、 「北九州文学サロ ン」を拠点とし て、点在する文学 的素材やさまざま な文化資源・文化 的取組みをつなが る仕組みづくりを 行う。	「北九州文学サロ ン」の来館者数	H28年度 開設	目標 14,000 人	14,000 人	14,000 人 （毎年 度）	10,541	10,500	9,982	6,400	やや 遅れ	コロナ禍の中で感染拡大防 止に努めながら複数のイベン トを計画・実施し、来館者に 「文学の街・北九州」を発信 することができたが、新型コ ロナウイルス感染症拡大防止 の観点から、利用時には来館 者に感染防止対策に努めても らい、緊急事態宣言下では文 学サロンを閉館した。 その影響から来館者数が目 標を下回ったため「やや遅 れ」と判断。		
45	③ ①		松永文庫企画 事業	文化 企画 課	松永文庫が多数 所蔵している貴重 な映画資料等を活 用し、企画展やイ ベントを実施し 「映画の街・北九 州」の魅力発信を 行う。	年間来館者数	89,317 人 （H26年 度）	目標 10 万 人	10 万 人	10万人 （毎年 度）	6,772	9,600	5,815	4,900	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止のための臨時 休館のほか、外出を控える傾 向が続いたこと等により、年 間来館者数が目標の2割に留 まったことから「遅れ」と判 断。		
46	④		松本清張記念 館研究セン ター・普及事 業	松本 清張 記念 館事 務局	松本清張に関す るあらゆる資料を 収集・整理し、松 本清張の「人と作 品」を研究する調 査研究・資料収集 事業の実施や研究 誌を発行する。ま た、松本清張研究 者に奨励金を贈呈 する研究奨励事業 を実施する。 さらに、企画展 の開催や講演会、 読書感想文コン クールなどの市民 文芸活動支援事業 を行う。	松本清張記念館の 入館者数	58,187 人 （H22年 度）	目標 前年度 （47,828 人）比増	前年度比増	前年度 比増 （毎年 度）	9,638	11,788	11,430	23,250	順調	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防止のため約2ヶ 月間臨時休館したが、入館者 数は微増し回復傾向にあるこ と、また、満足度においても 前年度を上回ったため「順 調」と判断。		
						企画展入場者の満 足度	85% （H22年 度）	目標 90 %	90 %	90%以 上 （毎年 度）								
								実績 87.7 %	87.9 %									
								達成率 97.4 %	97.7 %									

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題	
47	④ ⑧ ①		北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業	文化企画課	いのちのたび博物館を中核に、文化施設や商業施設等が連携し、東田地区を中心に地域の活性化や観光客の誘客に向けた取組を実施する。	東田地区における文化関連施設3館の来館者数の増加率（対H29年度比）	目標	約73万人（H29年度）	10 % 増	10%増（R2年度）	22,094	20,000	16,945	9,800	遅れ	博物館内のコレクションや市内に暮らす動植物をモチーフにしたデジタルネイチャーアート展（北九州未来創造芸術祭「ART for SDGs」の一環）や連携企画展、周遊促進事業を実施するなど、東田地区を中心とした文化観光の推進に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休館等の影響を受け、来訪者数が大幅に減少し、目標に到達できなかったため「遅れ」と判断。				
							実績	74 % 減												
							達成率	—												
						東田地区の来訪者数（観光客数）	72.7万人（H30年度）	72 万人	集計中	200万人（R6年度）										
						東田地区の外国人来訪者数（観光客数）	約7千人（R1年度）	4,000 人	13 人	10,500 人（R6年度）										
III-2-(3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	48	⑤ ④	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	目標	30,367 人（H26年度）	21,000 人	21,000 人	21,000 人（R1年度以降毎年度）	3,698	3,574	2,736	4,650	順調	新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き種目数・参加者数ともに目標に到達していないものの、前年度に比べて参加者数は改善しているため、「順調」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」の推進に向けた各事業を実施するため、新型コロナウイルス感染症の影響で十分に事業の実施ができず、成果指標の目標達成に至っていないため、「やや遅れ」と判断。 【課題】 地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創り、地域社会全体のスポーツ環境を形成する、総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させる取組を強化する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、開催可能な場合も、安心安全に運営等を行う必要がある。	コロナ禍における制約のある中においても、「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、市民に身近なスポーツ大会の開催から、プロアスリートの育成、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く事業を展開していく。
							実績	14,816 人	18,064 人											
							達成率	70.6 %	86.0 %											
49	⑤ ④		生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	目標	12,371 人（H26年度）	15,000 人	15,000 人	15,000 人（R1年度以降毎年度）	15,607	16,602	14,675	4,400	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント中止が相次ぎ、目標を達成できなかったため、「遅れ」と判断。			
							実績	428 人	262 人											
							達成率	2.9 %	1.7 %											
50	⑤ ④		総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	目標	1,800人（H22年度）	4,000 人	4,000 人	4,000人（R4年度）	3,022	2,600	2,600	2,900	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響で、交流事業等が中止になったものの、会員数については若干の増加は見られたため「やや遅れ」と判断。			
							実績	1,675 人	1,830 人											
							達成率	41.9 %	45.8 %											

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）						
51	③ ④ ⑪		夢・スポーツ 振興事業	スポーツ 振興課	トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。	選手強化事業参加者数	210人 (H26年度)	目標 1,000人 実績 2,027人 達成率 202.7%	1,000人 2,004人 200.4%	1,000人 (毎年度)	8,051	9,000	6,096	7,900	大変 順調				
						教室・強化講習会等の実施	5種目 (H26年度)	目標 11種目 実績 9種目 達成率 81.8%	11種目 8種目 72.7%	11種目 以上 (毎年度)									
III-2-(3)-② スポーツを通じたにぎわいづくり	52	③ ④ ⑧ ⑪	北九州マラソン開催事業	スポーツ 振興課	・コース：北九州 市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数 マラソン：11,000名、ペアリレーマラソン：150組300名、ファンラン（3km又は5km）：1,000名	マラソン大会開催による経済波及効果	10.5億円 (H25年度)	目標 単年度目標 設定なし 実績 — 達成率 —	単年度目標 設定なし — —	11.5億円 (R4年度 までに)	14,820	88,543	88,132	39,500	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、多くの大会等が中止になった一方で、2021世界体操・新体操選手権北九州大会を100%有観客で実施するなどの成果をあげることができた。 また、「スポーツボランティア養成講座の実施」は6割以上、「ボランティアリーダー登録者数」は概ね目標を達成、ギラヴァンツ北九州の市民認知度及び北九州スタジアムの利用実績においては目標を達成していることから、「順調」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、安全安心な運営等を行う必要がある。 また、「北九州スタジアム」の市民認知度は目標を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主催試合の平均入場者数、「スポーツ観戦率」が目標に届いていないことから、今後も北九州スタジアムをはじめとする各スポーツ施設を活用し、「見る」スポーツの更なる振興を図る必要がある。		北九州マラソンの安全安心な実施を目指す。また、大会の開催により、市民のスポーツ・健康に対する意識のさらなる向上を目指すとともに、本市の魅力を全国へ発信する。 北九州スタジアム維持管理事業は、スタジアムの利用を通じて、まちのにぎわいづくりを図るものであるため、継続して事業を実施していく。 また、コロナ禍での施設利用をより一層図り、市民に夢と感動を提供できる施設として、適切な維持管理運営を行っていく。	
						インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング（参加者7,000人以上の大会を対象）	9位 (H28年度)	目標 1位 実績 — 達成率 —	1位 — —	1位 (毎年度)									
						ボランティアリーダー登録者数	15人 (H30年度)	目標 30人 実績 44人 達成率 146.7%	30人 29人 96.7%	50人 (R4年度)									

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標	決算額 (千円)		予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
53	③ ④ ⑪		国際大会・全 国大会等ス ポーツ開催	ス ポ ー ツ 振 興 課	市内での国際大 会等の開催によ り、「みる」ス ポーツの機会 の拡大を図り、多くの 市民のスポーツへ の関心の向上及び 個々の競技力の向 上等につなげる。	国際・全国大会等 の開催数	29回 (H26年 度)	目標	30	回	30	回	30回 (毎年 度)	3,050	4,500	1,250	3,650	やや 遅れ	新型コロナウイルス感染症 の影響により、門司港レト ロマソンは前年度に引き続き 中止となったが、国際・全 国大会等の開催数は大幅に改善 し、目標値の9割を達成した ため、「やや遅れ」と判断。		
							実績	18	回	28	回										
							達成率	60.0	%	93.3	%										
54	③ ④ ⑪		ギラヴァンツ 北九州支援事 業	ス ポ ー ツ 振 興 課	本市のシンボル チームである「ギ ラヴァンツ北九 州」を支援するた め、ホームゲーム 開催経費や遠征費 の一部を補助。	ギラヴァンツ北九 州の市民認知度	87% (H26年 度)	目標	90	%	90	%	90% (毎年 度)	35,000	40,000	40,000	3,075	順調	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大のため、Jリーグ として入場制限を実施した影 響により、ギラヴァンツ北九 州の平均入場者数が目標には 届かなかったが、市民認知度 は前年同様に目標を達成した ため、「順調」と判断。		
							実績	96.1	%	95.8	%										
							達成率	106.8	%	106.4	%										
55	③ ④ ⑪		ホームタウン 推進事業	ス ポ ー ツ 振 興 課	本市をホームタ ウン・準ホームタ ウンとする、「ギ ラヴァンツ北九 州」や「堺ブレ イザーズ」「福岡 ソフトバンクホー クス」等の市民観 戦事業や、体験教 室の開催など、市 民がスポーツに親 しむきっかけ作 りを実施。	スポーツ観戦率	23% (H26年 度)	目標	40	%	40	%	40% (R4年 度)	46,420	68,000	54,254	6,575	遅れ	本市のシンボルチームであ るギラヴァンツ北九州の平均 入場者数は所属するJ2リーグ で22チーム中14位と低迷。ま た、新型コロナウイルス感染症 の影響により、親子招待事 業等による観戦者数や、ス ポーツ観戦率が目標に届かな かったことから、「遅れ」と 判断。		
							実績	15.2	%	14.9	%										
							達成率	38.0	%	37.3	%										

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由
56	④	③	大規模国際スポーツ大会等誘致関係事業	国際スポーツ大会推進室	生涯スポーツの振興やまちの賑わい創りに繋がる大規模国際スポーツ大会の試合会場、及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へと繋げることを目的として、誘致プロモーションの展開や官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地誘致数	—	目標 オリ・パラ キャンプの 実施	実績 0 競技	4 競技	1ヶ国又 は1競技 以上 (R3年 度)	62,120	1,112,000	851,654	280,000	順調	国際スポーツ大会等の開催については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標である3件に達することが出来なかったものの、誘致委員会の開催回数や誘致プロモーション活動の実施回数、キャンプ地誘致数については目標値を達成出来たため、本事業について総合的に「順調」と判断。		
					国際スポーツ大会等の開催	4件 (H27年 度)	目標 3 件	3 件	実績 1 件	2 件	3件 (毎年 度)								
57		⑦ ⑧ ⑪	北九州スタジアム維持管理事業	スポーツ振興課	北九州スタジアムは、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンド・ゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちのにぎわいを生み出すイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できる施設である。 施設の適切な維持管理・運営を実施することで、「みる」スポーツの機会提供の充実を図り、スポーツを通じたまちのにぎわいを生み出す。	「みる」スポーツの機会提供の充実（グラウンドの年間利用日数）	—	目標 100 日	100 日	100日 (毎年 度)	104,251	104,251	104,251	2,750	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種スポーツ大会や大規模イベント（ロックフェス等）が中止となる中、ジャパンラグビートップリーグやJリーグでのスポーツ利用に加え、「わっしょい百万夏まつり」やマルシェ、映画会など、様々な形での利用があり、コロナ禍でのにぎわい創出に寄与し、「フィールド100日利用」を達成しているため「順調」と判断。			

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進	58	⑪ ⑰	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	目標 134 団体	実績 134 団体	135 団体	136 団体	137団体 (R5年度)	267,976	329,095	274,863	3,825	順調	補助金の導入団体は、目標を上回ったことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域総括補助金、地域づくり活動への参加者の割合も概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。 【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取組の内容は、様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。	引き続き、地域が一体となった市民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や地域で様々な取組を行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開する。
	59	⑪ ⑰	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。	地域づくり活動への参加者の割合 ※中期目標改訂（R4年度目標設定時）	39.6% (H29年度)	目標 46 %	実績 33.9 %	46 %	32 %	50% (R7年度)	2,578	1,580	210	3,575	順調	コロナ禍により地域活動自体が減少しているため、地域づくり活動への参加者の割合は、若干減少しているが、概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調		
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営	60	⑪ ⑰	市民センターの維持管理	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。 また、地域活動の拠点施設としての機能の維持・向上を図るため、老朽化対策等の改修を計画的に行う。	市民センター1館当たりの利用者数	32千人 (R1年度)	目標 42 千人	実績 16 千人	42 千人	17 (暫定値)	42千人 (毎年度)	2,448,987	2,497,682	2,446,097	46,250	遅れ	老朽化対策等のハード面の整備は、目標を上回る整備が実施できたが、新型コロナウイルス感染症拡大による貸館業務の中止等や、外出自粛の影響により、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数の目標達成率が40%前後となったため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 市民センターの老朽化対策等のハード面を計画を超えて整備することができたが、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数の目標達成率が40%前後となったため「遅れ」と判断。 【課題】 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を実施する必要がある。 また、多様化する地域の課題を踏まえた支援を検討する。	SNS等による情報発信や、市民センターに係る手続きのオンライン化などのICT技術活用を検討し、利用者増加につなげていく。 市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策等のハード面を整備する。
						市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数（延べ）	2,084千人 (H27年度)	目標 2,200 千人	実績 856 千人	2,200 千人	868 (暫定値)	2,200千人 (毎年度)									

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）							決算額 （千円）			
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	61	① ⑰	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	目標	85	%	85	%	85% （毎年度）	27,355	27,570	26,578	4,095	順調	「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は、双方とも目標に近い結果となったことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化にかかる広報・研修については、市自治会総連合会と連携しながら継続的に取り組んでいる。「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は、双方とも目標に近い結果となったことから「順調」と判断。 【課題】 若い世代への働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組みなどにより、自治会・町内会の活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンションの管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めことに力を入れていく。 また、ICTを活用することにより、自治会役員の負担軽減及び若い世代の自治会加入促進を図る。		
							実績	79.2	%	78.7	%												
達成率	93.2	%	92.6	%																			
Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援	62	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数（累計）	目標	135	法人	135法人 （R2年度）	88法人 （H29年度）	実績	128	法人	94.8	%	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
							達成率	94.8	%														
目標	25,000	人	20,000	人																			
新規設立NPO法人数	17法人 （R1年度）	目標	15	法人	15法人 （毎年度）	実績	14	法人	93.3	%	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座実施等は概ね順調であり、新規設立NPO法人数も概ね達成しているため、「順調」と判断。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。						
		達成率	93.3	%																			
		目標	20,000	人		20,000	人																

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度			R3年度			中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由
63	④		NPO公益活動 支援事業	市民 活動 推進 課	市民活動の更なる 促進を支援する ため、NPO等が専門 性を発揮して行う 活動に対し、事業 費の一部を補助す る。	補助交付事業件数 （累計）	109件 （R1年 度）	目標 120 件 実績 121 件 達成率 100.8 %	130 件 131 件 100.8 %	150件 （R5年 度）	2,718	2,702	2,389	3,275	順調	補助交付事業件数及び成果 発表会の参加人数が目標を概 ね達成しているため「順調」 と判断。			
						成果発表会の参加 人数（累計）	431人 （R1年 度）	目標 530 人 実績 457 人 達成率 86.2 %	580 人 475 人 81.9 %	680人 （R5年 度）									
Ⅲ-3- (2)-②	64	①	多様な主体に よる市民活動 の輪づくり事 業	市民 活動 推進 課	市民主体のまち づくりを推進する ため、市民活動へ の理解を深め、新 たな担い手の参加 を促すとともに、 NPOと様々な団体間 のネットワークづ くりや協働を支援 する。	NPOと企業・地 域・大学等との協 働件数	4件 （R1年 度）	目標 5 件 実績 10 件 達成率 200.0 %	5 件 15 件 300.0 %	5件 （毎年 度）	1,474	3,170	3,221	2,470	大変 順調	団体間のネットワークを構 築し、協働件数が目標を上 回っているため「大変順調」 と判断。	【評価理由】 協働件数が目標を上回って いるため「大変順調」と判 断。 【課題】 参加団体へのフォローアッ プ等を行い、団体間の協働事 業の立ち上げを支援する。		多様な主体による協働を 推進するため、NPO・企業等 との交流会を引き続き実施 し、団体間の協働を推進す る。

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3- (3)-① 市民参 画と協 働のた めの仕 組みづ くり	65	④ ⑱	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	2,146人 (R1年度)	目標 2,000 人 実績 2,351 人 達成率 117.6 %	2,250 人 2,476 人 110.0 %	2,750人 (R5年度)	842	1,231	816	6,400	順調	NPOとの協働についての研修への参加が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修への参加者数及び協働件数は目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。	協働への理解を深めるセミナーやNPOと様々な団体との交流会の開催等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。
						収入増加団体数（累計）	11団体 (H29年度)	目標 16 団体 実績 18 団体 達成率 112.5 %		16団体 (R2年度)									
						運営改善団体数（累計）	3団体 (R1年度)	目標 9 団体 実績 8 団体 達成率 88.9 %		15団体 (R5年度)									
	66	⑱	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標 5 件 実績 10 件 達成率 200.0 %	5 件 15 件 300.0 %	5件 (毎年度)	1,474	3,170	3,221	2,470	大変順調	団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を上回っているため「大変順調」と判断。			

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3- (3)-② 市民との協働 を推進 できる 市役所 づくり	67	④ ⑰	NPO・市民活 動促進事業	市民 活動 推進 課	市民活動の促進 に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働 等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。	新規設立NPO法人 数（累計）	88法人 (H29年 度)	目標 135 法人	実績 128 法人	達成率 94.8 %	135法人 (R2年 度)	19,803	17,709	16,939	19,725	順調	緊急事態宣言の発令に伴う 臨時休館等により、サポート センターの利用者数は大きく 減少したものの、講座実施等 は概ね順調であり、新規設立 NPO法人数も概ね達成してい るため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 サポートセンター利用者数 は大きく減少しているもの の、その他の目標は概ね達成 しており、市民との協働を推 進しているとして「順調」と 判断。	市民との協働を推進する ため、協働意識向上のため の研修、セミナー等の充 実、NPO・市民活動に関する 情報提供に取り組む。
	サポートセンター 利用者数	29,293 人 (R1年 度)	目標 25,000 人	実績 11,572 人	達成率 46.3 %	20,000 人 (毎年 度)	11,572 人	8,256 人	41.3 %											
新規設立NPO法人 数	17法人 (R1年 度)	目標 15 法人	実績 14 法人	達成率 93.3 %	15法人 (毎年 度)															
68	④ ⑰	「NPOとの協 働によるまち づくり」人材 育成事業	市民 活動 推進 課	協働に関する理 解を深めるための 研修、協働事業を 実施するために必 要な団体運営力向 上を図るための研 修を実施する。 また、経済的に 自立したNPOの増 加を図るため、資 金調達力や企画力 の向上を図るセ ミナーを実施する。	NPOとの協働につ いての研修への参 加者数（累計）	2,146人 (R1年 度)	目標 2,000 人	実績 2,351 人	達成率 117.6 %	2,250 人	2,750人 (R5年 度)	842	1,231	816	6,400	順調	NPOとの協働につ いての研 修への参加者数が目標を達成 しているため「順調」と判 断。	順調	【課題】 市民活動の担い手の育成 や、協働に対する啓発をさら に推進する必要がある。 サポートセンター利用者数 はコロナ禍以前の水準を目指 す。	
収入増加団体数 （累計）	11団体 (H29年 度)	目標 16 団体	実績 18 団体	達成率 112.5 %	16団体 (R2年 度)															
運営改善団体数 （累計）	3団体 (R1年 度)	目標 9 団体	実績 8 団体	達成率 88.9 %	15団体 (R5年 度)															

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
IV-4-(1)-② 偉人・ 先人の 顕彰	69	4	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数	10,741人(H23年度)	目標 30,000人 実績 8,973人 達成率 29.9%	30,000人 17,641人 58.8%	30,000人(毎年度)	9,789	18,671	15,592	30,950	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行った上で企画展を実施し、展示を紹介する動画配信などを行った。入館者数は増加傾向にあったが、達成率が58.8%で目標には至らなかったため「やや遅れ」と判断。			
	70	4	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人(H22年度)	目標 前年度(47,828人)比増 実績 10,453人 達成率 21.9%	前年度比増 11,973人 114.5%	前年度比増(毎年度)	9,638	11,788	11,430	23,250	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため約2ヶ月間臨時休館したが、入館者数は微増し回復傾向にあること、また、満足度においても前年度を上回ったため「順調」と判断。	順調	引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行ったうえで、より魅力のある企画展等の開催を企画するなど、特に若年層の来館を促す仕組みが必要。	引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行ったうえで、より魅力のある企画展等の開催及び入館者の満足度の向上を図る。
						企画展入場者の満足度	85%(H22年度)	目標 90% 実績 87.7% 達成率 97.4%	90% 87.9% 97.7%	90%以上(毎年度)									

令和3年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
IV-4-(2)-③ 都市イ メージ の向上	71	⑧ ①	映像製作誘致 強化関連事業	文化 企画 課	映画・テレビド ラマ等のロケ地誘 致や撮影支援を積 極的に行い、本市 の知名度と都市イ メージの向上を図 る。 また、活動成果 の市民との共有 や、「映画の街・ 北九州」という都 市ブランドの発信 により、街のにぎ わいの創出や市民 交流等のまちづく りにつなげる。	地域経済への貢献 (直接経済効果)	目標	150,000 千円	150,000 千円	150,000 千円 (R1年度 以降毎 年度)	17,106	33,484	16,398	39,600	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の影響で撮影支援活動が大幅 に制約される中、新しい生活 様式に則った厳格な対策を行 いながら、撮影の誘致・支援 活動を実施した。 これにより、多くの映像作 品の誘致を成功させるととも に、複数のオール北九州ロケ の大規模作品の誘致を実現し た。 また、未だ来日できない海 外制作者向けには、Zoomを活 用したオンラインロケハンに よる誘致活動を行い、コロナ 終息後の誘致に向け好感触を 得た。 以上のことから、「大変順 調」と判断。	【評価理由】 映像製作誘致強化関連事業 について、高い認知度を維持 し続けていること、また、都 市ブランドとして「映画の 街・北九州」を広めたいと思 う市民の割合について目標を 大きく上回った。 以上のことから「順調」と 判断。 【課題】 映像製作誘致強化関連事業 では、引き続き新型コロナウ イルス感染症予防対策を徹底 し、市民・ロケ地に安心して もらいながら撮影支援を行う 必要がある。また、今後の渡 航制限解除に向け、いかに知 名度のある海外作品の誘致を 行い、本市の魅力を海外に発 信し、インバウンドを獲得し ていくかが課題である。	映像製作誘致強化関連事 業については、新型コロナ ウイルス感染症予防対策を 徹底しながら、引き続き国 内外の映画等の大規模作品 の誘致・支援を進めてい く。	
							実績	23,080 千円	140,826 千円										85.0% (R1年度 以降毎 年度)
							達成率	15.4 %	93.9 %										
						北九州フィルム・ コミッションの市 民への認知度	目標	85.0 %		85.0% (R1年度 以降毎 年度)									
							実績	86.8 %											
							達成率	102.1 %											
						都市ブランド「映 画の街・北九州」 を広めたいと思う 市民の割合	目標		17.0 %	17.0% (R3年度 以降毎 年度)									
							実績		28.5 %										
							達成率		167.6 %										